

[参加者]

ICRR柏: 中谷・黒田・大橋・三代木・石塚・我妻・齋藤(陽)・山本(博)・山元・齋藤(芳)・高橋(竜)・三尾・森脇・大前・森  
NAOJ: 川村・辰巳・新井・佐藤(修)  
京大: 中村・安東  
大阪市立大: 神田

[決定事項]

- 今まで隔週でやってきた LCGT コラボレーションミーティングの一部を、月一の頻度で拡大コラボレーション会議とし、時間を増やして各作業班ごとの立ち入った議論をできるようにする。
- コラボレーション会議の前に30分間コーディネータ会議を開く。

[アクションアイテム]

- 各サブタスクリーダーは 5月末までに ICD を黒田氏に提出する。  
その後の取扱として、7月始め、まとめたものをCollaboration会議に提示  
11月 ICD 中間まとめ
- ドキュメントコントロール(次回再検討)。

[議事録]

- 概算要求の近況(黒田)  
LCGT 申請額 155億円のうちトンネル掘削の 30億円を引いた額を申請することとなった。申請が通りやすくなるための配慮か。  
日本学術会議の大型計画の検討会が5月 28日に予定されており、岡村先生から 15分で LCGT・ELT・SPICA の説明がなされる。LCGT の説明資料を岡村先生に提出した。  
補正予算については、一つはサファイヤ鏡等に関する 10億円の申請で、これについては落選した。もう一つの LCGT 全体の申請については、当落が確定していない。
- データ解析部(神田)  
- LCGT 計画の初期と 5年後で、帯域に関して異なる構成になる可能性も踏まえて、広帯域 RSE, 狭帯域 RSE それぞれへの付帯条件を議論した。詳しい内容についてはドキュメントを作成中。

川村コメント：「仮に帯域切り替えが困難という結論になった場合はどちらを推奨？」

→NS連星合体をターゲットの最優先にするために、RSE の各方式に付帯条件がある、というのみで、どちらがいいかという結論は出していない。

黒田コメント：「BH の波形の解析が最近進んできたので考慮に入れる？」

→イベントレートが不明なので、NS連星合体より優先度を上げるわけにはいかないというのが今の立場。

- 「解析センター」サブグループを作りたい。

→趣旨説明をメールで回覧する。

o 真空・低温・防振（高橋(竜)）

- 6月 3日に防振の第一回ミーティングを開く予定。

- 住友重がクライオメック社とほぼ同等の性能のパルス冷凍機の市販を開始する。特注改造により LCGT で使える可能性がある。

o 特別作業班（川村）

干渉計・帯域・SPI の各班で会議を開き、作業進行中。

o 検討の進め方に関する要求について（中谷）

- タスクの優先順位をつけてアナウンスして欲しい（辰巳コメント）「干渉計、SPI 以外のタスクが対象と思ってほしい」

→現行の隔週のコラボレーションミーティング(1時間)のうち月一回を3-4時間に伸ばし、各サブタスクのもう少し詳しい議論のできる拡大コラボレーション会議にしたらどうか。作業班メンバーの重複を考えると、コラボレーション会議出席者がこの会議にまず集まり、そのときの優先順位に基づいて少し突っ込んだ議論ができるようにするのが合理的。

- コーディネータの役割の定義

「コーディネータはサブタスク班の成果・決定については責任はない。サブタスク間の調整をするメタコーディネータの役割ももつ」という立場でよいか。

⇒米国流のような厳密な作業責任を問うものではないが、所掌する作業班の状況の把握、システムから降ってくる要求を流すパイプ役にはなってほしい。

川村コメント「会議をなるべく減らしたい。干渉計の議論は全体でやりたいが、サブタスク班でもやるのは二度手間になるので、全体の会議へ比重を移したい」

神田コメント：「解析関係のサブグループとしては、コラボレーションミーティングで報告する今のスタイルが丁度いい」

三尾コメント：「人が少ない作業班では、今のままでよさそう」

中谷コメント：作業班あるいは、コーディネータごとに状況は異なるので、コーディネータの判断に任せてよいのではないか。いずれにしろ、月一回の拡大 collaboration 会議を活用し、重複した会議の数は減らすことを工夫。

- 会議の日時調整

コラボレーションミーティングの前にコーディネーター会議をやることにしたい。  
各作業班のミーティングについては、バッティングの調整が大変なので、例えば木曜にまとまった時間を確保しておいて、議題に応じて作業班ごとに時間を割り振りするという案が出ている。

- 議事録関連

決定事項とアクションアイテムをベースにした議事録にしたい

- ドキュメントコントロール関連

これを読めば概要が分かり、詳細は付録を見れば分かるというものを作って一元的にまとめておきたい。

中谷コメント：「オフィシャルなデザインドキュメント、ICDなどはきちんとバージョン管理する予定。その他の無数のドキュメント、プレゼン資料なども、分類し、一連の番号を付与して一元的に管理するのが、理想だが、管理者のロードが大き過ぎるので、疑問。今回は保留」

安東コメント：「ICD間のアップデートの過程で不整合が発生する」

中谷コメント：「正式な ICD で不整合があるのは困るので、全体で未承認の変更項目には TBD をつけて書いておいて欲しい。」

- 各人の参加可能グループ数に制限をつける案

川村コメント：「学生の人が全体を把握するために全てのサブタスクに入ろうかと迷う例がある。例えば 3つまでに制限するという案がでた。」

→各人の判断を尊重して、特に制限はつけなくてもいいのではないか。

o 特別作業班のスケジュール確認（川村）

7月末までに観測帯域・SPI 等に関する重要部分の推奨案を出す；

8月末までにレビューを行う；

9月末までに各サブシステムのデフィニション・リクワイアメント・インターフェースを確立する；

11月末までに重要部の設計を完了させる；

3月末までに最終設計を完了させる；

（以上、詳しくは 2009-05-12 に LCGT2008 ML に流れた文章参照）

これを承認してほしい。

中谷コメント：「ICD リリースは、TBD を含んだ状態でいいので、9月末目標に早めて欲しい」

o 次回 6月 8日(月曜) 拡大コラボレーションミーティング

午後 1 時 3 0 分—午後 2 時 コーディネーター会議

午後 2 時—午後 5 時 3 0 分 本会議

（KEK MCU をハブにする予定）